

DATA

〈敷地面積〉132.05㎡〈建築面積〉66.24㎡〈床面積〉1階 66.24㎡、2階 41.40㎡、合計 107.64㎡〈建蔽率〉50%〈許容60%〉〈容積率〉81%〈許容300%〉〈主要構造〉木造〈用途地域〉第一種中高層住居専用〈構造設計〉ASD〈設計期間〉18ヶ月〈工事期間〉8ヶ月〈竣工〉2016年〈総工費〉3,500万円（税別、設計料別）

リビングからダイニングキッチンと2階の子どもリビングが視界に入る。子どもリビングは「娘たち専用の場所があると楽しそう」というご主人の提案で生まれた。

GREATEST LIVING ROOM HUBリビング

大森の家

（東京都大田区）

〈設計・施工〉

前田工務店

住人データ

夫（41歳） 会社員

妻（41歳） 会社員

長女（11歳）

次女（7歳）

三女（3歳）

吹き抜けのある玄関ホールに面したリビングは10㎡ほどだが、天井を高くして開放的に。アーチを描く下がり壁がアイキャッチ。床はラフな質感の足場材。

GREATEST LIVING ROOM

大森の家（東京都大田区）



「家の中に路地があるイメージ」（前田さん）をもとに、居室をつなぐ間仕切り壁はアーチ状にした。アクメファニチャーのソファは、空間に合わせやすい色や座り心地が決め手となり購入。娘さんたちもそろって集まるお気に入りの場所。

左・バスルームを始め、各部屋の扉はあえて違うデザインを選択。
右・1階の洗面はペDESTAL型洗面器とランタンタイルでレトロに。



上・サーモバイン材張りの壁の内部は寝室。将来、2つに分けて子ども部屋にする予定。
下・水まわりは KOHLER のシンクを採用。アンティークの額縁をミラーに仕立てた。



シヨンも候補に挙がったが、子どもたちの足音や声を気にせず過ごせる一戸建てに、よりメリットを感じ、ご主人のお父さまが所有するアパートがあった敷地に新築することに。「前面道路のある北側以外の三方に隣家が迫っているので、アパート内部はとにかく薄暗い印象で…。開放的な住まいができるかどうか、一番の懸念事項でした」とご主人は振り返る。

住宅関連イベントで知った設計事務所数社のプランを比較検討し、日当りなど細かな要望を丁寧に反映しながらも、「想定外の案を提案してくれた」という前田工務店に設計を依頼した。

「外の景色は期待できない分、室内だけでいかに開放感を出すかがテーマでした。リビングの天井を高くし



外観はご主人の要望でアメリカ西海岸のサーファーズハウスを意識したデザイン。白一色の外壁に米松の造作玄関ドアがアクセント。

「吹き抜けを見上げながらソファでのんびり過ごすのが好き。決して広くはないけれど、ここにいると住まい全体が見渡せて、家族の気配が感じられます」（奥さま）
広々とした玄関ホールの吹き抜けに面しているのが、Kさん宅のリビングだ。わずか10㎡ほどのスペースだが、高窓からやわらかな光が注ぐ天井高4.4mの空間は実に開放的。1、2階の中間に位置するため、ソファに腰掛ければすぐ下にダイニングキッチン、2階を見上げると子ども専用リビングで遊ぶ3人の娘さんたちの姿が視界に入る。まさに住まいの中心だ。

東日本大震災を機に、それまで暮らしていた中古マンションの耐震性に不安を感じ、住み替えを検討し始めたご夫妻。マンションリノベーション

大きなアーチ開口のリビングが家族5人の居場所をつなぐ

3人の子どもたちと過ごすリビングは、スキップフロアと吹き抜けで縦横に視界が広がる住まいの中心。密集地でも心地いい開放感を生み出す。

text_ Kiyo Sato photograph_ Kai Nakamura



「第一印象が肝心。他の部屋が狭くなっても広い玄関がほしい」という奥さまの希望で約6㎡のスペースを確保。2階の廊下は吹き抜けを囲むようコの字に配置。



リビングは玄関ホールから床高を1m上げて下部を床下収納にした。吹き抜けのある空間でも快適に過ごせるよう温水で家全体をあたためるアクアレイヤーを敷設。



2階の廊下を進むとアーチ壁と奥に寝室の鮮やかな青い扉が。



てメインの採光窓を設け、そこを中心に上下階をワンルームのようにつなげることで、開放感を生み出しています。同時にリビングのまわりに、ダイニングや子どもリビングといった居場所をたくさん用意して思い思いに過ごせるようにしました」と設計者の前田哲郎さん。

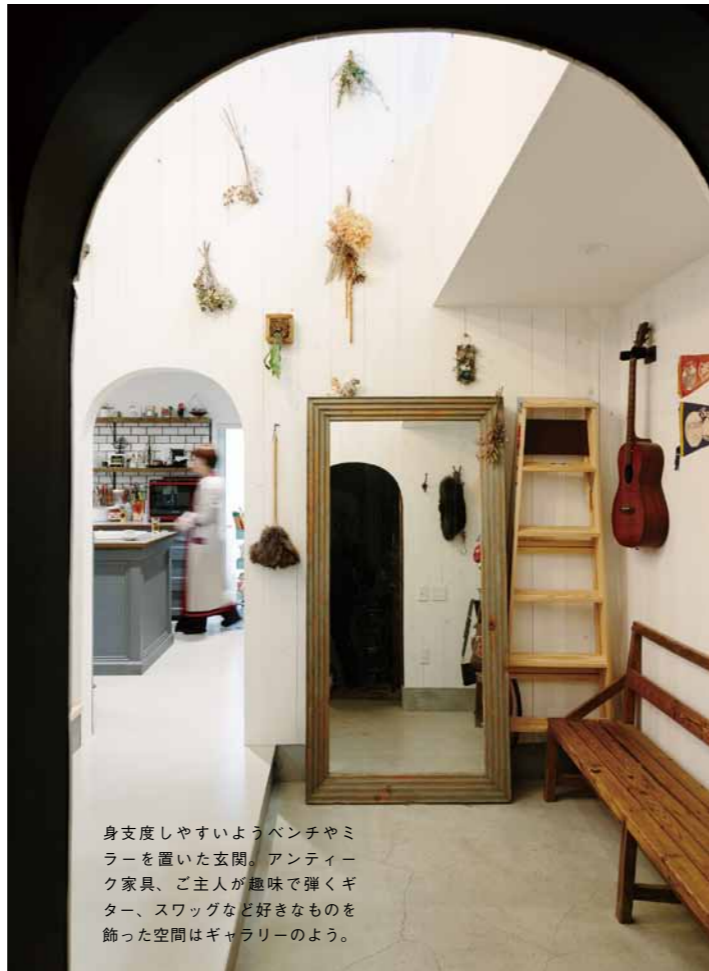
もひと工夫。アーチをくぐると奥に別のアーチが現れ、家の中に路地があるような感覚にさせる。「もともと趣味が合う」というご夫妻のこだわりが詰まったインテリアは、フレンチシャビーとアメリカ西海岸のテイストをバランス良くミックス。白を基調にしなが、キッチンや腰壁、階段などに落ち着いた色合いのグレイッシュカラーを選択。杉材、足場板などのラフな質感やアンティーク家具で味わいをプラスしながらも、全体としてシックな印象にまとめて上げている。

オリジナルのキッチン、奥さまが好きなグレー色にし、四方框の扉でクラシックな雰囲気をプラス。オープン棚でディスプレイ収納を楽しんでいる。



玄関ホール横には家族全員の衣類をしまうWICを確保。有孔ボードに帽子やバッグなどをかけて収納。さわやかなグリーンの壁はご夫妻がDIYで塗装した。

GREATEST LIVING ROOM
大森の家（東京都大田区）



身支度しやすいようベンチやミラーを置いた玄関。アンティーク家具、ご主人が趣味で弾くギター、スワッグなど好きなものを飾った空間はギャラリーのよう。

外部仕上げ

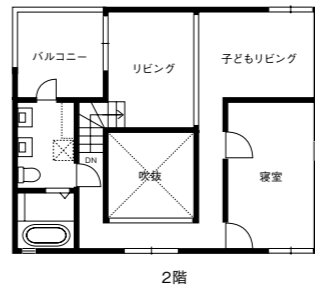
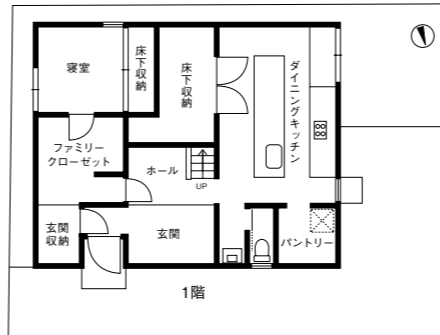
〈屋根〉ガルバリウム鋼板
〈外壁〉サイディング大平板+白塗装

内部仕上げ

1階〈玄関ホール〉床：フレキシブルボード
壁：杉アイジャクリ加工+ AEP 塗装 天井：ビニルクロス
〈ファミリークローゼット〉床：オークフローリング
壁：有孔ボード+塗装、PB+塗装 天井：ビニルクロス
〈ダイニングキッチン〉床：フレキシブルボード
壁：珪藻土、タイル 天井：ビニルクロス
〈リビング〉床：足場板 壁：珪藻土 天井：ビニルクロス
2階〈廊下・子どもリビング〉
床：オークフローリング 壁：サーモバイン、珪藻土 天井：ビニルクロス
〈洗面室〉床：タイル 壁：タイル、ビニルクロス 天井：ビニルクロス

設備メーカー

〈冷暖房システム〉アクアレイヤー〈キッチン〉造作
〈IHコンロ〉Panasonic〈食洗機〉Rinnai
〈キッチン水栓〉KOHLER〈照明〉Panasonic、施主支給ほか



Maeda Komuten

前田工務店 自社で設計から施工までをこなし、注文住宅とリノベーションを手掛ける。土地や物件探しから施主に寄り添い、「心地よい時間」をコンセプトに、敷地と暮らしに合わせた家づくりを提案。現在、神奈川県と都内を中心に活動中。写真は代表の前田哲郎(左)と小島泰介(右)。

神奈川県海老名市
杉久保北1-11 金子工場2階
TEL 046-206-4722
FAX 046-206-4755
info@maedakomuten.jp
maedakomuten.jp



左・フレンチシャビーを意識した杉材の白壁には、奥さまお手製のスワッグをディスプレイ。右・玄関を入ると正面に黒板塗装の壁が。白い扉の奥は玄関収納とWICなどの収納スペースを集約。



ダイニングテーブルはソファと同じアクメファニチャーのもの。部屋の雰囲気に合わせた照明はアイアン製やシャンデリア電球など味わいのあるデザインが中心。